

議案第1号

枚方市都市景観基本計画改訂案の策定について

枚方市都市景観基本計画 【改訂版】
(案)

平成25年 月 枚方市

はじめに

最後に、本計画の改訂にあたって、貴重なご指導・ご助言をいただきました「枚方市景観審議会」の委員各位、並びに、「枚方市景観懇話会」の会員各位をはじめ、関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成 25 年 7 月 枚方市長 竹内 脩

序章	枚方の新たな魅力をつくる	1
第1章	都市景観基本計画改訂の前提	3
1-1	景観とは	3
1-2	都市景観基本計画改訂の背景	5
1-3	都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成	7
第2章	枚方市の景観特性	9
2-1	枚方市の景観の成り立ち	9
2-2	枚方市の景観の特徴	10
2-3	枚方市の景観構造	12
第3章	景観づくりの目標と方針	15
3-1	景観づくりの目標	15
3-2	景観形成の課題	16
3-3	魅力づくりのテーマと基本方針	19
	(1)魅力づくりのテーマ	
	(2)魅力づくりのテーマを実現するための基本方針	
	(3)都市景観の類型分類	
	(4)都市の骨格景観の方向性	
	(5)地区タイプ別の方向性	
第4章	地域への展開	33
4-1	地域区分	33
	(1)景観地域・景観区域の区分	
	(2)主要景観軸	
4-2	区域別 景観形成の方向	35
	(1)枚方市駅周辺景観区域	
	(2)樟葉駅周辺景観区域	
	(3)北部景観区域	(4)中部景観区域
	(5)南西部景観区域	(6)南部景観区域
	(7)中南部景観区域	(8)中東部景観区域
	(9)東部景観区域	
4-3	主要景観軸別 景観形成の方向	82
	(1)国道1号・170号景観軸	
	(2)第二京阪道路景観軸	
	(3)淀川景観軸	
	(4)穂谷川景観軸	
	(5)天野川景観軸	
第5章	景観づくりの進め方	106
5-1	景観づくりの主体と役割	106
5-2	景観づくりの展開（取組み）	109
巻末資料		115
資料1	枚方市都市景観基本計画改訂の経緯	115
1-1	枚方市都市景観審議会	
1-2	景観懇話会	
1-3	景観形成検討委員会・同幹事会	
資料2	用語解説	118

枚方の新たな魅力をつくる

古くから、人や物資の重要な交通路として利用されてきた淀川、百済寺や桜の花を詠まれた渚の院など、都人との関係も深い地であった枚方。現在の姿が形づくられたのは、東海道に枚方宿が設けられた江戸時代の頃にまで遡ります。

昭和30年代から、当時東洋一といわれた香里団地の建設をきっかけに枚方は住宅都市としての道を歩み始め、40年代に入ると市街地開発は急激に進行し、人口の急増から学校建設など公共施設が整備されましたが、機能性や効率性を重視したあまり、美しさや快適さが十分に満たされたまちづくりが行われてきたとは言えませんでした。

やがて、都市部への人口集中の時代から都市に定住する時代に入ると人々の関心は身近な環境へと移り、生活が豊かになるにつれて精神的・文化的豊かさが求められるようになりました。

そして、近年、地球規模の環境問題が大きくとりあげられ、東日本大震災以後、将来のエネルギーへの関心が高まると、自然や環境との共生や地球にやさしい都市づくりの必要性を、一人一人が自分自身の問題としてとらえるようになりました。

このような変化の中、景観という視点から生活を取り巻くまちなみを考えるとき、私たちは、何をまもり、何をつくり、何をそだてるべきなのでしょう。





枚方には先人によって築きあげられた独自の文化や歴史、生活と一体となり形成された里山や田園、「生駒のみどり」「淀川のみず」に代表される豊かな自然があります。こうした風土や自然が枚方の個性的な景観の基本をつくっています。

このような要素を活かし、文化や歴史を感じ、自然と親しみ、豊かで、潤いのあるまちをめざし、訪れたい、住みたい、住み続けたいと思える魅力的なまちづくりが求められています。

そのために不可欠なもの。それは、まちをデザインすること。

都市の美しさ・都市に住む快適さ・都市に遊ぶ楽しさ・自然環境との調和などを重視し、新たな魅力をまちにつくりだすことです。

景観形成には継続的な努力と時間がかかります。そして、景観は、まちづくりに係わるすべての人々の意識とそれに基づく行動によって守られ、育まれ、つくられます。

この「枚方市都市景観基本計画」では、『**枚方の新たな魅力をつくる**』を景観づくりの目標として、枚方のもつ風土や特性を活かしながら、市民・事業者・行政が一体となって枚方市がめざす将来の都市像の基本的な方向を、景観という面から示していきます。

第1章 都市景観基本計画改訂の前提

1-1 景観とは

都市景観とは

私たちが都市を眺めるとき、一般的にはそれらをかたちづくっている道路や建物をはじめ、木々の緑や水、生き物などの自然を含むものを風景として捉えます。しかし、都市や地域のイメージはそのような視覚的なものだけではなく、都市の歴史や文化あるいは人々の生活の表れを五感で捉えたときに生まれてきます。

そのような感性に訴える「都市の風景や姿」を都市景観といいます。

それゆえに景観は、それぞれの都市の文化を表すバロメーターとしての一面を持っているともいえます。

また優れた景観という場合、単に美的なだけでは十分とはいえません。都市を構成する自然や人工的な要素が互いに調和を保ちながら、それぞれの魅力を引き出している必要があります。いきいきとした人々の暮らしぶりや、活気ある都市の活動が感じられる景観は、住む人の愛着を高めると同時に訪れる人々に深い印象を与えます。

こうした景観は一朝一夕にできるものではありません。そこに生活する人々が手を取り力を合わせ、生き方、暮らし方を後世に伝える意思をもちながら長い年月をかけて育てていくことが大切です。



景観形成の担い手と役割

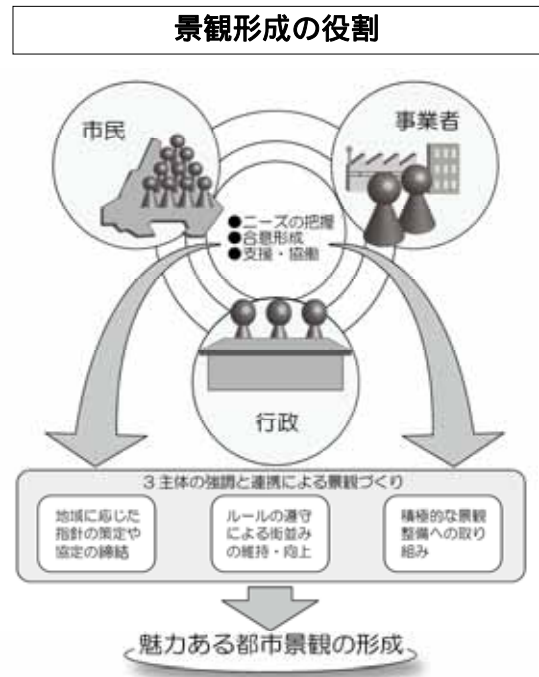
景観形成には市民・事業者・行政が一体となった取り組みが不可欠です。そのためにはこれら三者が景観形成の担い手としての役割を理解し、互いに協力していく必要があります。

《市民・事業者の役割》

市民・事業者は、自らの生活や事業活動が地域の景観形成に大きく影響することを認識し、望ましいまちの姿を地域ぐるみで考えていくとともに、その実現のために積極的に取り組みます。

《行政の役割》

行政は市民合意のもと、まちなみの整備を先導的、計画的に行っていくとともに、市民参加による景観づくりのための仕組みを整えていきます。



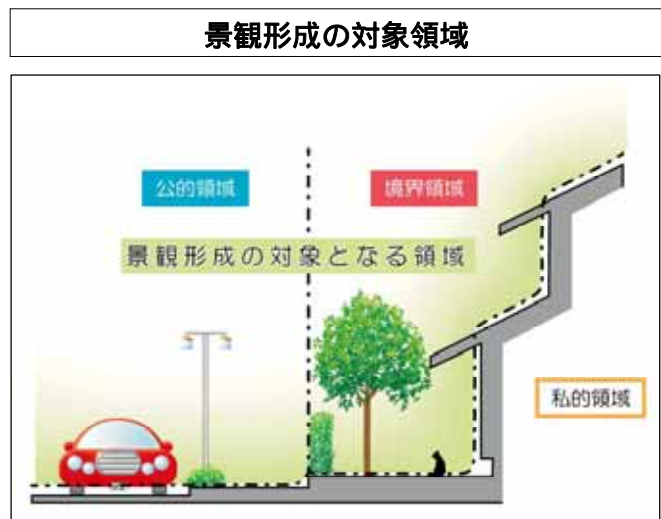
景観形成の対象領域

都市空間は河川などの公的空間と、これらと接する私的空間の2つに分けることができます。景観形成では公的空間だけではなく、私的空間のうち建築物の屋根・外壁・窓辺をはじめ、前庭・塀・生垣などの境界領域も重要な役割を担っています。

例えば、道路の景観を整えても、道路に面した建物のファザードや庭先の木々などの調和が図られなければ良好なまちなみとはいえません。

このように、まちづくりの上では公的領域と境界領域を一体的に考えなければならないため、これらを併せて景観形成の対象領域とします。

また、見る人がいるからこそ景観があるため、見る人が位置する全体の地域環境やその背景となる遠景も考慮しなければなりません。



1-2 都市景観基本計画改訂の背景

都市景観基本計画の改訂の背景

平成 6 年の「枚方市都市景観基本計画」の策定から 18 年が経過し、市域においても土地利用の変化や新たな都市施設の整備、都市の骨格を成す主要道路の開通など、都市景観を取りまく情勢は様々に変化してきました。

平成 21 年には、まちづくりの方針を示す「第 4 次枚方市総合計画 第 2 期基本計画」が策定されており、平成 28 年からは第 5 次の基本構想に基づく基本計画が策定されることとなります。また、平成 11 年に策定された「枚方市都市計画マスタープラン」も平成 23 年に改定され、新たなまちづくりの方向性が示されています。また、国においても「景観法」の施行などによって新しい枠組みが準備されました。

こうした状況の変化を踏まえ、「枚方市都市景観基本計画」へと改訂を行うことが必要となりました。

都市景観基本計画の役割

都市景観基本計画とは、枚方市の景観まちづくりの基本的な目標となるものです。多くの人々が心地よいと感じる将来の景観ビジョンを明確にし、市民と事業者と行政が協働で総合的かつ体系的に景観まちづくりを実現化していくための計画となります。また、「景観法」に基づく「景観計画」「景観条例」の策定にあたっては、上位計画として位置づけられるものです。

このため、都市景観基本計画では、枚方市が今後めざすべき景観形成の目標として基本方針を示し、その実現に向けた方策など景観づくりに取りくむための指針としての役割を担います。

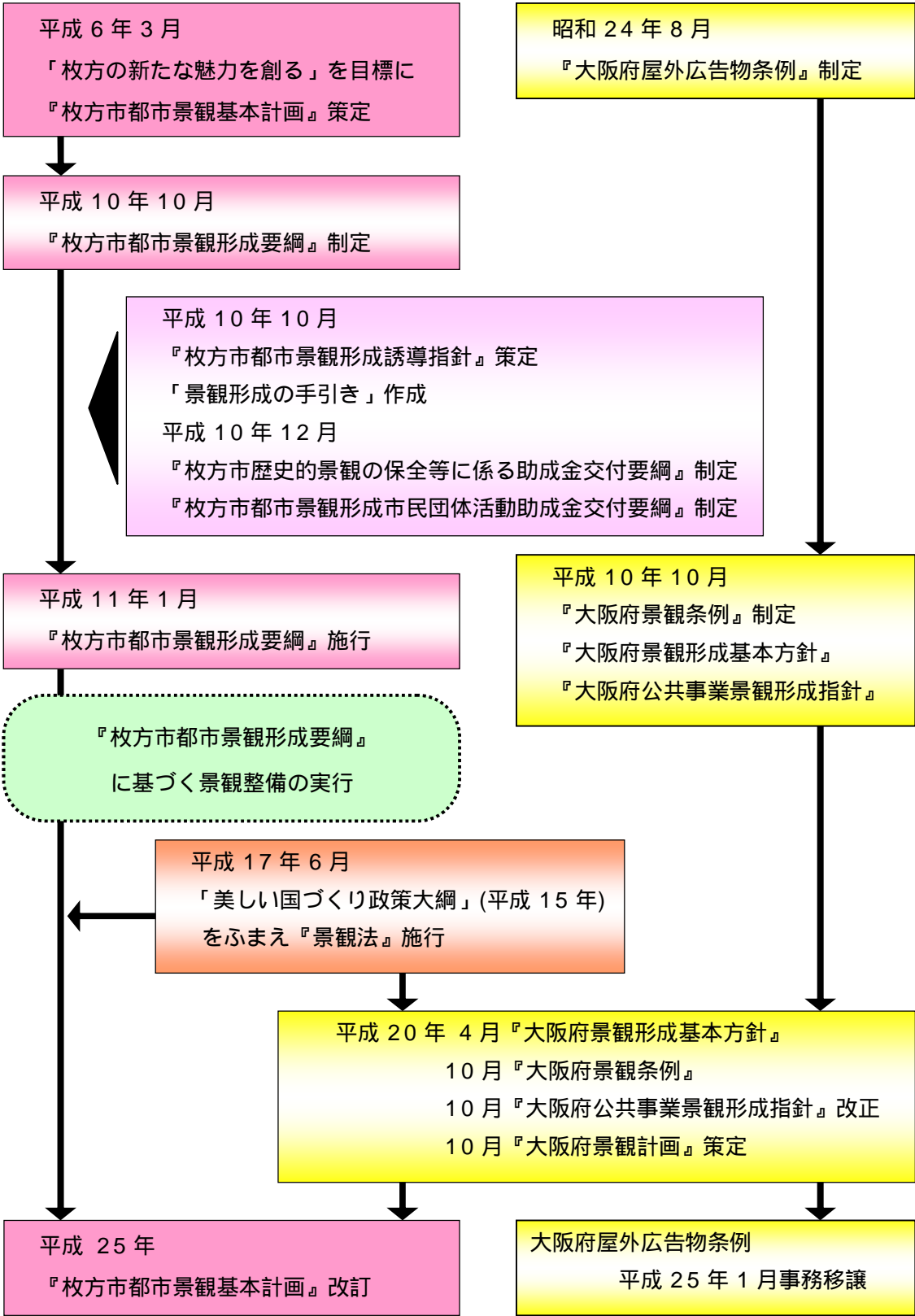
都市景観基本計画の改訂の方針

都市の景観は、道路・河川などの都市の骨格とまちに広がる建物や水辺・緑地などの自然によって形成され、良好な景観一朝一夕に改善・創出できるものではなく、長い年月をかけて段階的に取り組んでいく必要があります。

都市景観基本計画の改訂の方針

- ・ 現行の都市景観基本計画に沿って進めてきた取り組みを継承する。
- ・ 新たな課題に対応する。
- ・ 将来に向けた景観形成の推進の仕組みを整える。
- ・ 都市景観基本計画改訂の初期段階から市民の意見を取り入れる。
- ・ まちづくりに係わる計画との連携を図る。

枚方市の景観形成に係るこれまでの取り組み

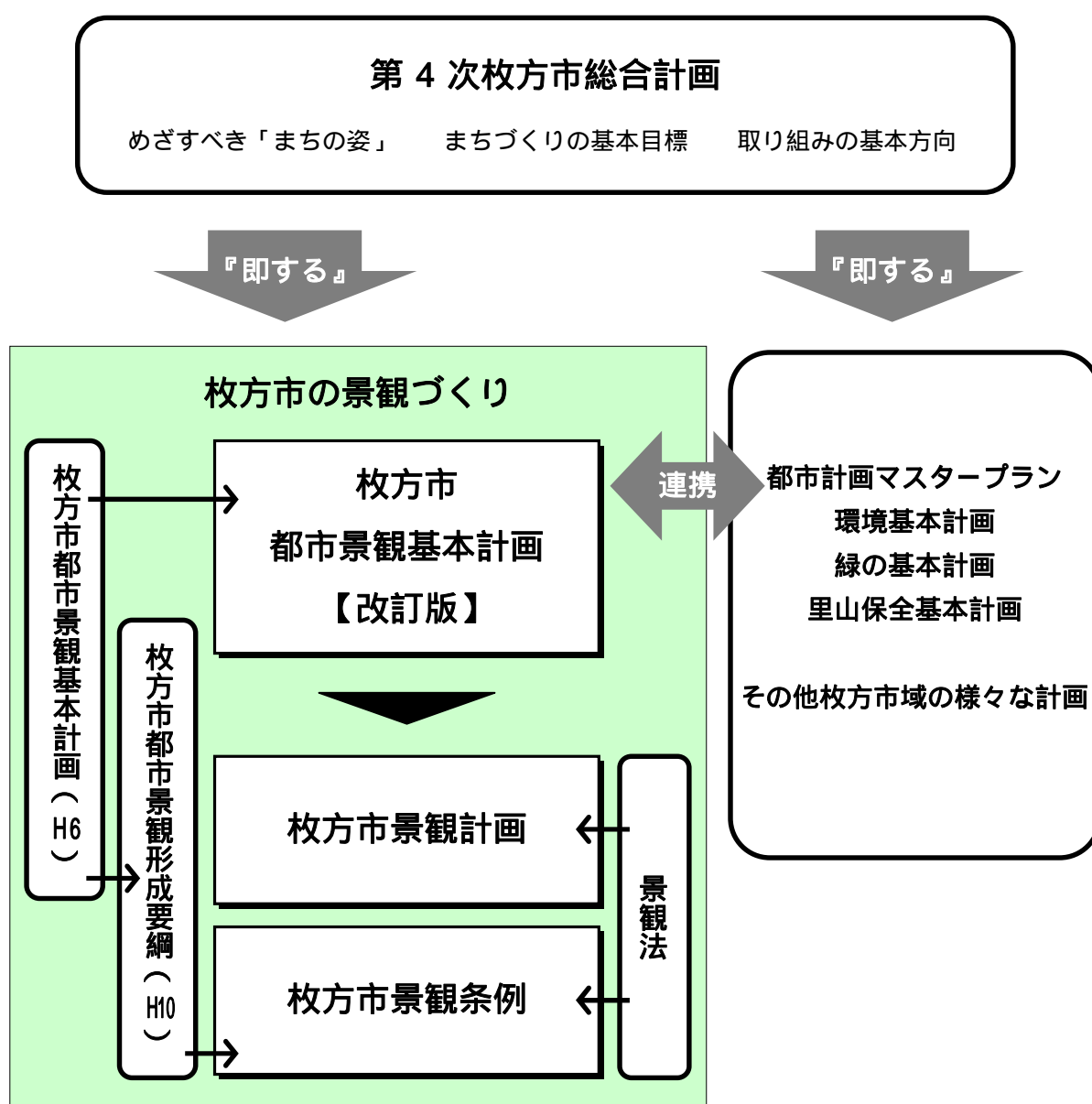


1-3 都市景観基本計画改訂版の位置づけ・構成

上位計画にみる位置づけ

都市景観基本計画は、まちづくりの総合的な方針を示した「第4次枚方市総合計画」に即し、「都市計画マスタープラン」などの「まちづくり」「都市づくり」に関する計画と相互に連携した計画として位置づけるものです。

上位計画と景観基本計画・景観計画との関係

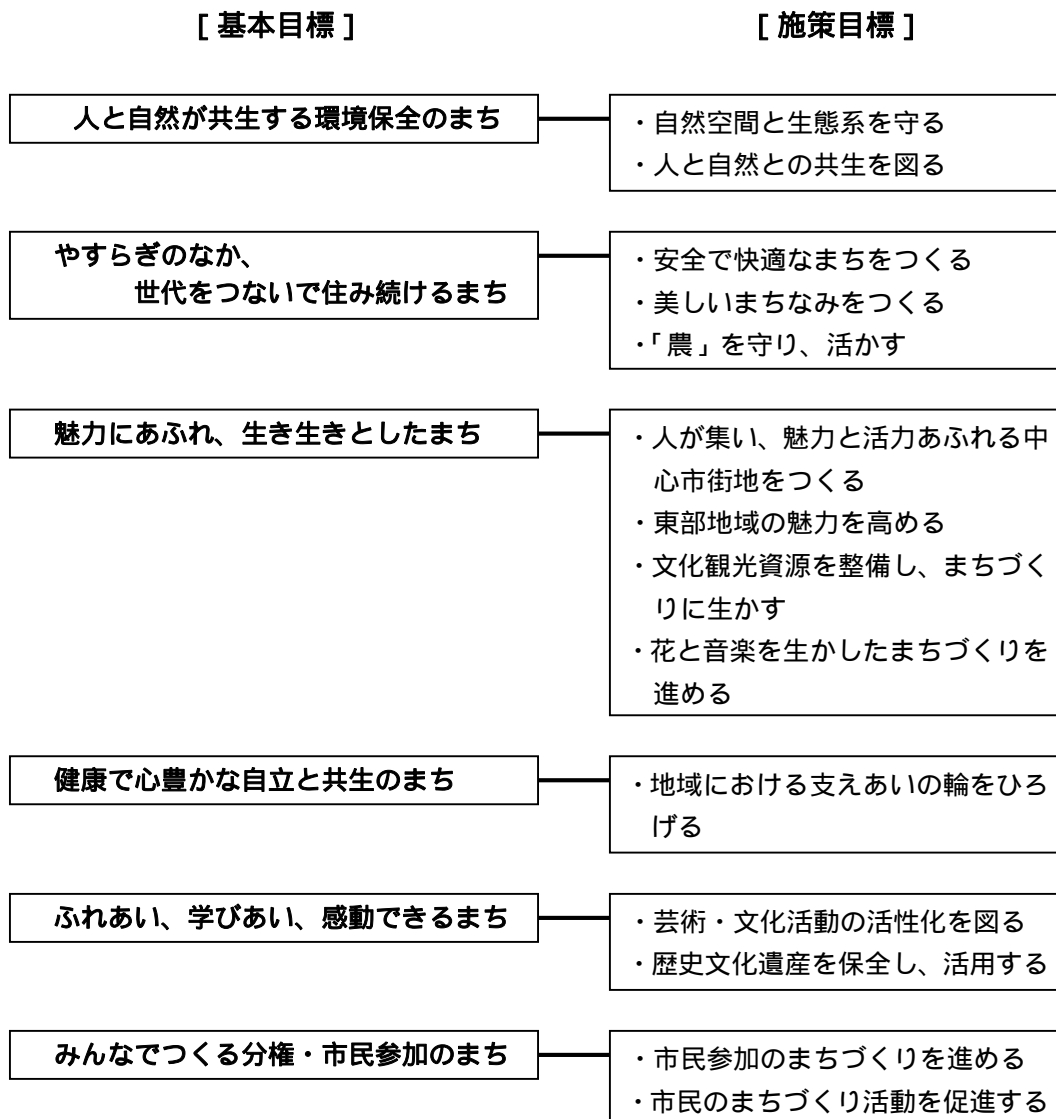


第4次枚方市総合計画（第2期基本計画）にみる景観形成の考え方

枚方市がめざす「まちの将来像」を示し、まちづくりの総合的な方針である「第4次枚方市総合計画」においては、めざすべき「まちの姿」を『出会い・学びあい・支えあい、生きる喜びを創るまち、枚方』と定めています。

この将来像を実現するために、まちづくりの基本目標と取り組みの基本的方向を掲げるとともに第2期基本計画ではその実現に向けた施策目標を定め、様々な事業を展開しています。その中で、市民が歴史・文化、自然、まち等との良好な関わりを持つための重要な要素である景観形成は、都市の潤いや快適性を高め、魅力を向上させていく重要な役割を担っています。

景観に関わる主な基本目標と施策目標は以下のとおりです。



第2章 枚方市の景観特性

2-1 枚方市の景観の成り立ち

枚方は京都・大阪・奈良の中間に位置し、いにしへの時代より、「淀川のみず」と「生駒のみどり」に育まれた豊かな風土に恵まれてきました。

平安時代には交野台地は交野が原と呼ばれ、貴族の遊獵地として、また桜の名所として広く知られていました。平安時代の歌人である在原業平（ありわらのなりひら）が渚院の桜を見て詠んだ歌

～世の中に耐えて桜のなかりせば 春の心はのどけからまし～

は、『伊勢物語』や『古今和歌集』にも収められ、桜の花のはかなさを詠んだ名歌として親しまれています。

江戸時代に、京都、大坂を結ぶ京街道が整備され枚方宿が設置されると、枚方は枚方宿と淀川の舟運により京都・大坂間の交通の中心となり、宿場町として発展していくこととなります。往時の淀川の美しさは、シーボルトが淀川を船で遡った折に、「祖国マインの谷を思い出させる」と賞賛したほどでした。

一方、京街道が整備された西部とは対象に、東部では生駒山系に連なる丘陵部に里山の豊かな自然に溶け込んだ集落が点在し、また、穂谷川・船橋川沿ではため池や社寺林をもつ集落が形成されました。

このような歴史の流れを受け継いで来た枚方も、昭和時代の高度経済成長とそれに伴う急激な都市化により新たな市街地景観を創り出し、現在では多様な景観を合わせ持つに至っています。



2-2 枚方市の景観の特徴

枚方市では、東部の生駒山系から西部の淀川にかけて、自然や歴史によって育まれ、人々の生活や経済・社会的条件を反映した様々な景観が見られます。都市化によってたとえどんなに景観が変化しようが、風土や自然から完全に離れることはできず、これらが枚方市の個性的な景観の基本を形成しています。そうした景観構造を踏まえながら、枚方市に見られる景観上の特性について分類・整理します。

自然景観特性

枚方市の地形は西から淀川左岸低地・丘陵地・東部山地と大きく 3 つの部分に分けられます。

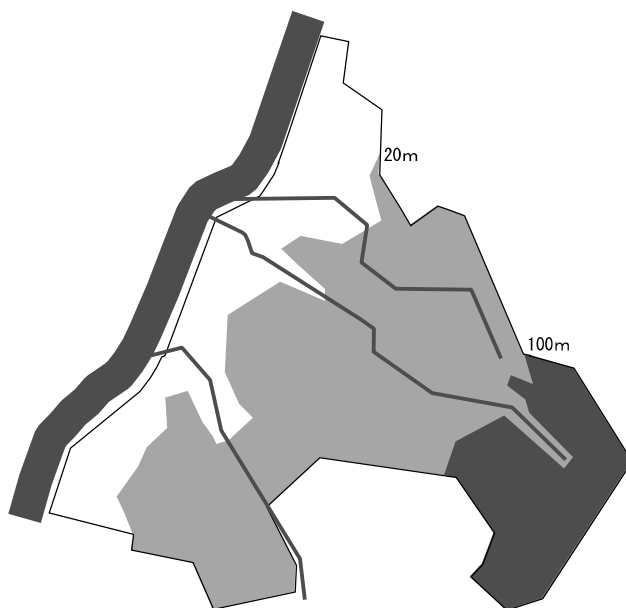
淀川は広大な空間を有する河川で、河川敷には葦原やわんどなどの自然が残り、その堤防や市内の比較的高い場所からは北摂の山並や生駒山系に至る壮大な眺望を得ることができます。また淀川には東部山地から、天野川・穂谷川・船橋川の 3 本の河川が流れ込んでおり、これらも高い堤防を有しており広く市域を望むことができます。

一方、淀川や 3 河川に沿った丘陵斜面地には多くの樹林が見られ、とりわけ光善寺から御殿山にいたる京阪本線沿いに連なる斜面林の緑は、枚方市の代表的な景観となっています。

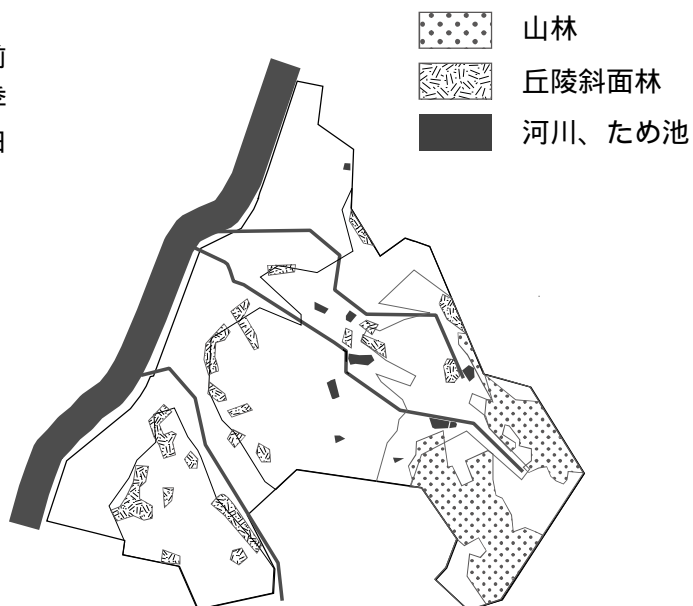
また丘陵地の河川沿いには田園も多く、その周囲に点在する灌漑用のため池は、市街地にうるおいをもたらしています。

東部山地は南につながる生駒山系の前山であり、市街地の背景として豊かな四季を演出しています。また山間部では、棚田が良好な里山景観を見せています。

枚方市の地形



枚方市の自然景観



歴史景観特性

枚方は古くから人々が定着して生活していたところで、市域にはそれを物語る遺跡や史跡が広く分布します。特別史跡に指定されている百済寺跡や、牧野車塚古墳などは現在公園として活用されています。

市域には古くからの農家集落が数多く存在します。その形態は集落によって様々であり、淀川低地部のまちなちに残る段蔵や山地集落の大和棟の民家などは当時の生活の姿を偲ばせます。また集落内の社寺は豊かな樹林に囲まれているものが多く、地域のランドマークとなっています。

沿道の歴史的な家なみが残された集落景観として、枚方宿や高野街道沿いの出屋敷集落などがあり、特に、枚方の成り立ちを今に伝えている枚方宿のまちなみは、地域固有の景観として保全活動が取り組まれており、旧京街道の面影が観光資源としても注目されています。

市街地景観特性

枚方市の市街地の大部分を占める住宅地は、西部の淀川低地から中部丘陵地、東部丘陵地にかけて広がりを見せています。

香里団地を中心とした枚方丘陵一帯や樟葉駅周辺の住宅地、北山地区、津田地区等は、まちづくりの制度等も活用した大規模な計画的開発によるもので、緑豊かなゆとりあるまちなみを見せています。一方、京阪沿線には昭和 40 年代に建設された比較的小規模な住宅地も見られます。また、田園地帯には古くからの農家集落も点在します。

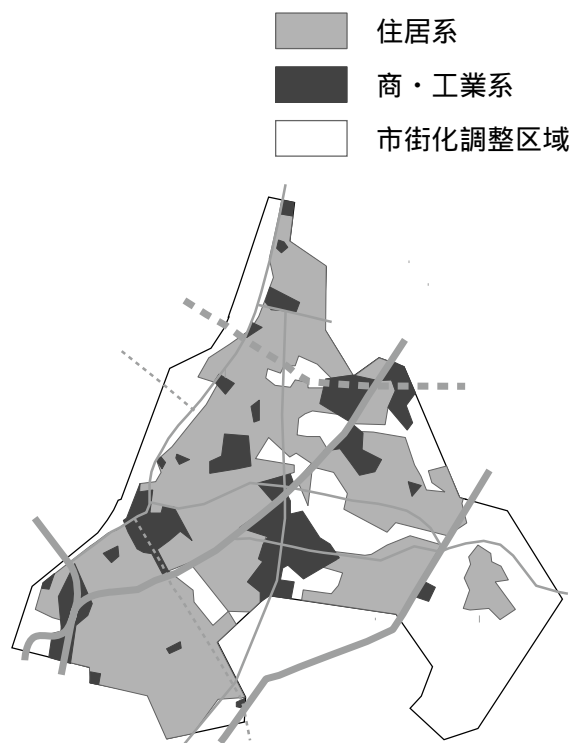
商業・業務地は枚方市駅や樟葉駅をはじめとした駅前を中心に形成されています。その他国道 1 号など主要な幹線道路沿道にはロードサイド型の商業施設が連なっています。

工業地の大半は交通の利便性が高い国道 1 号沿道に集中し、大規模にまとまっているものが多く、景観に大きな影響を与えています。

枚方市の歴史景観



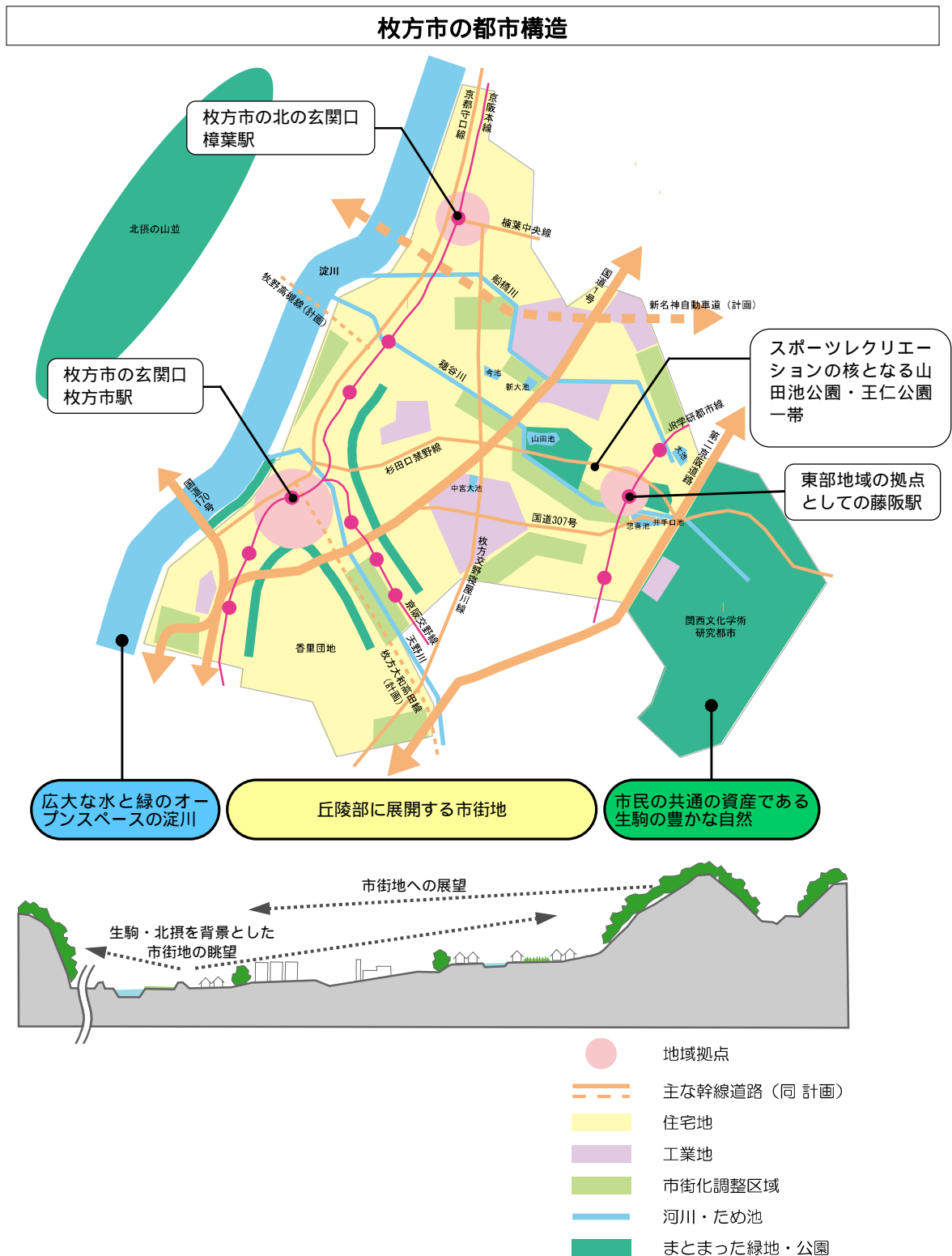
枚方市の市街地景観



2-3 枚方市の景観構造

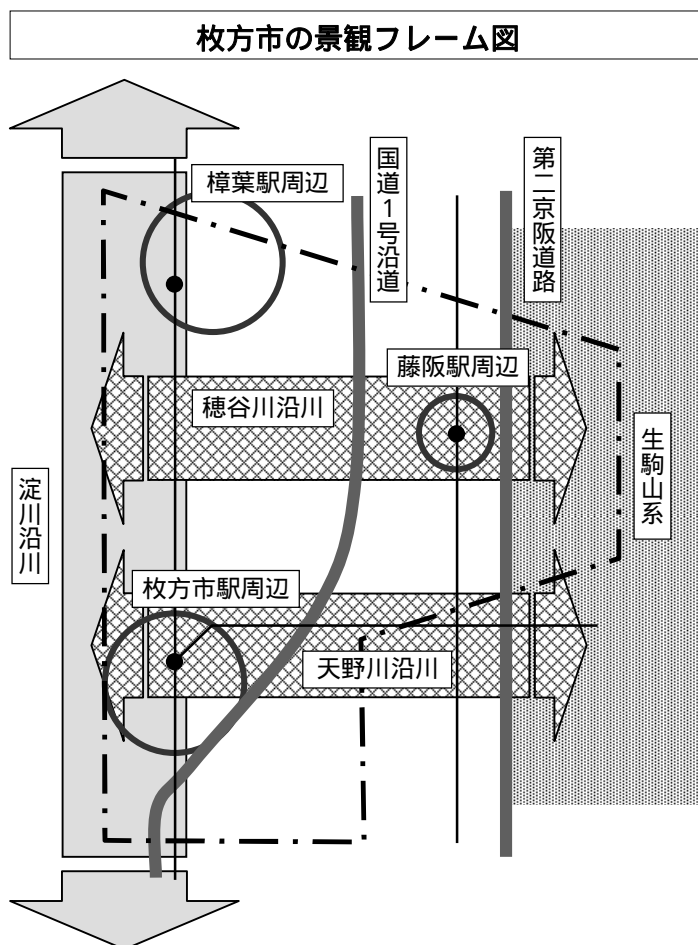
(1) 枚方市の都市構造

枚方市の都市構造は、東部に連なる生駒山系の山並と西端部を成す大河・淀川の流れに狭まった平地を、淀川の流れと同方向の南北方向に国道1号、第二京阪道路が貫き、生駒山系から淀川へ向けて東西方向に、穂谷川、天野川が流れ、景観の基本的な骨格を形成しています。



(2) 景観のフレーム

景観特性や都市構造をもとに、枚方を象徴する景観を示す拠点地域や、今後景観形成を行うべき地域を景観のフレームとして捉えます。



【枚方市駅周辺】

枚方市の商業・業務の中心、ターミナル機能の集中する枚方の顔といえる地域です。駅周辺は、淀川・天野川そして万年寺山に囲まれ自然及び歴史的な景観資源に恵まれています。また、駅の北方では、総合福祉施設や医療機関等が整備されてきました。また、淀川の河川敷では、ひらかた水辺公園も整備され、自然と歴史・文化が融合した地域を形成しつつあります。

【樟葉駅周辺】

枚方市の北の玄関口であり、住宅都市枚方のもう一つの顔となっています。駅前には、北河内有数の商業施設であるくずはモールや大規模な高層マンションなどが立ち並び、周辺には計画的に開発された良好な戸建て住宅地が広がっています。また、淀川や市民の森など自然も多く、景観資源にも恵まれた地域です。

【藤阪駅周辺】

藤阪駅周辺には、豊かな自然や昔の面影を今に伝える旧集落が残っています。その一方で関西文化学術研究都市構想に伴う産業拠点や住宅市街地、第二京阪道路の整備も進められてきました。また、隣接する王仁公園や山田池公園を中心とした緑とスポーツのエリアも形成されています。こうした条件を有する藤阪駅周辺は、周辺の自然環境と共生した東部地域の拠点に位置づけられており、周辺環境はこれからも大きく変化すると予想されます。

【淀川沿川】

「淀川」は枚方の自然を象徴する重要な資源であり、古くから歴史や生活の舞台となっています。現在、その広大なオープンスペースは一部がレクリエーション空間として利用されています。沿川の堤防上からは、北摂方面の山なみを背景に広大な河川空間が広がり、市街地方面には段丘面に連なる樹林等を望むことができます。

【穂谷川沿川】

穂谷川は、穂谷集落の奥に源流を持ち、生駒の山なみと淀川を結び、水と緑の軸を形成しています。

沿川には歴史的な趣を残す旧集落やため池が点在し、上・中流域には田園風景が広がっています。また山田池公園・王仁公園など、レクリエーション施設も沿川に整備されています。

【天野川沿川】

天野川は、生駒山地から交野・枚方両市を経て淀川へ注ぐ、北河内を代表する河川の一つです。七夕伝説をはじめ歴史と深い関わりを持ち、大阪府において、広域的に淀川と生駒を結ぶ水と緑のネットワーク軸の形成が目指されており、枚方市域は「にぎわい文化ゾーン」「はなやぎ暮らしゾーン」として位置づけられています。

【国道 1 号沿道】

京都、大阪を結ぶ広域幹線道路であり、車窓からの沿道景観は枚方の一つの顔と言えます。沿道には郊外型店舗が多く進出し、また工場や農地、住宅なども見られます。また橋詰などからは広大な展望景観を得ることができます。

【第二京阪道路】

生駒山系の山裾を通り、大阪、京都、北河内の各都市を結ぶ広域幹線道路であり、市街地と生駒山系との境界を成しています。「緑立つ道」として周辺地域との調和を図るための遊歩道などを設け、沿道には閑静な住宅地、大学、津田サイエンスヒルズ等が立地しています。

【生駒山系】

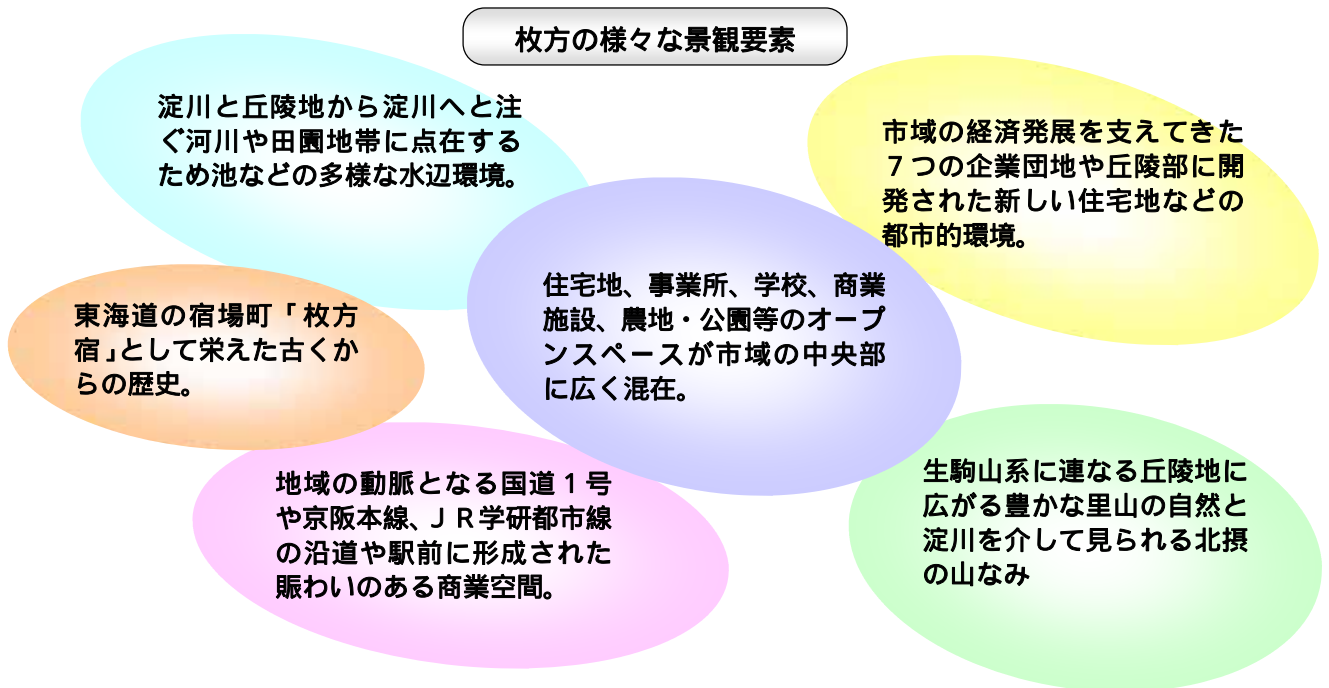
「生駒のみどり」は、枚方の自然を象徴する地域であり、特に国見山からの眺望は枚方八景にも数えられ、市民の身近な自然として親しまれています。

山間地には、大和棟など特徴的な文化を今に伝える穂谷などの里山の集落が残っている一方で、第二京阪道路の整備や関西文化学術研究都市としての産業・文化拠点の形成などの市街化も進み、徐々に新しいまちへと進展しつつあります。

第3章 景観づくりの目標と方針

3-1 景観づくりの目標

枚方市は歴史・風土や地域の特性など様々な景観要素を合わせ持ち、これらを紡ぎあわせ枚方の新たな魅力をつくることにより、「住みたい住み続けたい」から「市民が誇れるまち」の実現を図ります。



景観づくりの目標

『枚方の新たな魅力をつくる』

～ 自然と歴史と人を紡ぐ ひらかたの新しい景観づくり ～

市民・事業者・行政が連携した多面的な取り組みによる
優れた景観の保全・育成・創出



3-2 景観形成の課題

ここでは、枚方市の現在抱えている景観上の課題を、上位計画や基礎調査結果等の観点から整理し、今後進めていく景観形成の方向を探る手掛かりとします。

(1) 自然と歴史の保全と活用

枚方を象徴する自然の保全と活用

広大なパノラマ景観を有しながら市の西部をなされる淀川と、東部に連なり壮大な緑のランドマークとなっている生駒山系の山々。これらはともに枚方を象徴する自然風景であるとともに、市域における貴重な自然資源です。

しかしながら、淀川では高い堤防や幹線道路、鉄道等が市街地と河川空間とを隔てる位置にあるため、日常生活との関わりが希薄になっています。また生駒山系の山々では、その連続した緑の稜線の眺望が変化しつつあります。

今後これらを、枚方を代表する景観資源としていかに守り、また活かしていくかが重要な課題です。

市街地の身近な自然の保全と活用

枚方市には、船橋川・穂谷川・天野川をはじめとする河川と古くからの灌漑用のため池が多く残っており、これらは身近な水辺空間として枚方の特徴と言える貴重な景観資源です。

また、市街地に残る農地も貴重な緑のオープンスペースであり、丘陵斜面地に残る樹林や社寺林などを背景にしたまちの風景とともに、現在の枚方の特徴と言えます。

しかしながら開発などに伴い、ため池、農地や斜面林は減少傾向にあります。

今後、農地や丘陵地などでは周辺との調和や樹林の保全、市街地の緑化を図り、また、水辺空間などでは景観資源としてだけでなく都市の中の身近な自然とのふれあいの場とともに、健康に寄与する生活に溶け込んだレクリエーション空間として活かしていくことも重要です。

歴史の息づく景観の保全と活用

古いまちなみや百済寺跡などは、人をひきつける歴史の重みを感じさせる重要な景観資源です。枚方市には、かつての街道沿いに中世から近世にかけての集落や宿場町の風情が残っているところも少なくありません。その中でも、旧枚方宿や招提の寺内町、春日の環濠集落などは歴史的価値も高いです。特に、旧枚方宿においては、地域が主体となって歴史的景観の保全活動や町家を活かした商業施設の整備等に取り組みされており、歴史的雰囲気や散策する観光客などが訪れるようになっています。

また、穂谷・尊延寺の大和棟の民家や三矢・磯島の段蔵などは、枚方市の風土を表すものとして貴重です。

しかしながら住宅の建て替えなどに伴い歴史的な景観が失われることも危惧されます。

今後は、地域の歴史的雰囲気を損なうことなく、まちの個性として有効に活かし、歴史的な景観と調和のとれたまちづくりを進め、地域資源としての枚方市の魅力を高めていかなければなりません。

(2) 快適な地域環境（アメニティ）をそだてる

市街地の緑空間の充実

樹木に親しみ草花に触れ、季節感を感じられる環境が身近にあるということは、快適な地域環境を形成する上で不可欠です。

街路樹や公園・広場など計画的な植栽を行った公共空間に対し、公共施設の緑や住宅工場地内の緑化は十分とは言えません。

今後は、公園等の公共空間や住宅地・工業団地等の民有地の緑化を充実することが、うるおいと安らぎのある景観形成を進める上で重要です。

個性を活かした良好なまちなみ景観の形成

住宅地は市民の最も身近な生活空間であり、地域コミュニティと豊かな生活文化を育む基盤です。地域への愛着を高めるためには、良好な環境の住宅地を形成することが大切です。

今後、土地利用の変化による開発や既存住宅地での建て替えなどが予想され、地域の個性を活かした良好なまちなみ景観を形成することが求められています。

景観阻害要因への対策

駅前や商業地などの違法駐車や放置自転車、乱立する看板などは、都市景観を阻害している要因の一つです。また、幹線道路の沿道を中心に沿道立地型の商業施設の集積に伴って、大型の屋外広告の乱立が目立つようになり、道路景観が阻害されつつあります。

今後、景観を阻害している要因を除去・改善していくとともに市民の景観に対する意識の高揚とマナーの向上を図ることが必要です。

安全・快適なまちづくり

「住みたい住み続けたい」まちの実現のためには、住環境の安全性や快適性は必要不可欠なものであり、まちの魅力やまちに対する美しさへの関心にもつながります。

枚方市では既に公共空間において高齢者や障害者などに配慮した誰もが利用しやすい施設整備を進めてきましたが、まだ一部では、歩車分離や段差の解消といった問題も残っています。誰もが安全で快適に過ごせるまちづくりのために、ユニバーサルデザインにも配慮しながら、建築物や道路、公園などの公共施設の整備を進めていく必要があります。

(3) 都市の魅力をつくる

枚方市駅周辺の景観整備の必要性

枚方市駅は、枚方市の玄関口であり、駅周辺は枚方市の中心商業地としてにぎわいを見せてきましたが、社会経済情勢の低迷が続くなかで大型店舗の相次ぐ撤退や店舗の減少などがみられ、賑わいが薄れつつあります。また、北河内の行政の中枢を担う官公庁施設をはじめ様々な都市機能が集中して立地していますが、建物の多くが老朽化しつつあり、建て替えや改修の時期にさしかかりつつあります。一方、枚方市駅の北西部一体においては、再開発が進められラポールひらかた、メセナひらかた等の公的施設や関西医大付属病院等が整備され、新しい風景を創り出しています。

また、今後整備が予定されている総合文化施設なども含み枚方市駅周辺を一体的に考えた枚方市駅周辺再整備ビジョンも策定されています。

今後、ビジョンなどを踏まえ、41万都市としての風格とにぎわいのある都市景観を創っていく必要があります。

生活・商業空間の充実

枚方市駅周辺や樟葉駅前、ショッピングゾーンとしてにぎわいのある商業空間が形成されています。しかし、市内のその他の駅周辺には自然発生的に商店の集積が進んでいるところがあり、道幅が狭く道路や広場の整備も遅れ、駅利用者の増加とも相まって交通の渋滞が目立ちます。また一方では、国道1号等の幹線道路沿道を中心に大型の商業施設などの集積も見られます。

今後の課題として、地域の生活拠点となる快適で魅力ある商業空間の形成や沿道立地型商業施設の景観の向上が望まれます。

文化活動拠点の充実

枚方市では、地区の特性に応じた良好な都市環境の形成の一環として、輝きプラザきらら、中央図書館及び総合文化施設の整備等を進め、生活を豊かに彩る文化芸術活動の振興を図るとともに、市民の美意識や感性を磨き、まちの美しさへの関心を高めてきました。

しかしながら、枚方市は京都・大阪とともに電車で30分圏内という地理的条件のため利便性は高く、それが逆に京都・大阪においてレクリエーションや文化・芸術活動等を行う傾向も強いとも言えます。

今後は、「住みたい住みたい」まちの実現のために、更なる文化活動の充実を図ることにより、景観への関心や活性化につなげ、さらなるまちの魅力を向上する事が必要です。

うるおいのある沿道景観の形成

道路は都市景観を形成する上で骨格となる重要な要素ですが、枚方市の道路は全体的に歩道が狭く、街路樹も少ない上に、沿道の景観が雑然としています。

今後は、道路緑化や舗装などのデザイン、沿道の建物との境界際の植栽などを工夫し、季節感や夜間の景観も配慮し、歩行者にも快適に楽しく歩ける道路づくりを行う必要があります。

3-3 魅力づくりのテーマと基本方針

ここでは枚方市の景観の形成の課題を踏まえ、枚方市の持つ風土や特性を活かしながら、市民の意識や社会的なニーズに応じた魅力づくりを行っていくためのテーマと基本方針を設定し、枚方市の景観づくりの基本的な指針としていきます。

(1) 魅力づくりのテーマ

「豊かな自然や歴史」をまもる

西に淀川、東に生駒山系の山なみを望む自然に囲まれた枚方市は、市街地にも樹林や農地、ため池などが残り、自然が息づいています。また市域には様々な特徴のある歴史的なまちなみや地域文化が育まれています。

今後ますます都市が変化していく中で、枚方市に残された豊かな自然や歴史の原風景を次世代に引き継ぐとともに、それらと親しむ機会をつくりだしていきます。



「快適な地域環境」をはぐくむ

住宅都市として成長してきた枚方市も、都市としての成熟期を迎えているといえます。人々の生活環境に対する価値観も変化中、今後は機能的・量的整備にとどまらない、よりアメニティの高い地域環境の整備を進めていきます。



「都市的な魅力」をつくる

約41万人の人口を抱え、北河内の玄関口、行政の中核となっている枚方市。今後は国際化・情報化など社会の変化がますます進むなかで、外部との交流もさらに進むことが予想されます。そこで、枚方の都市としてのアイデンティティを高めるとともに、市民の誇りとなるような、洗練された都市的にぎわいや高い文化性が感じられる都市的な景観をつくっていきます。



(2) 魅力づくりのテーマを実現するための基本方針

「豊かな自然や歴史」をまもるために

- ・ 枚方を象徴する自然風景や
市街地に残る自然資源を守り活かす



- ・ 歴史的景観を守り、
まちの記憶・地域の個性として活かす



「快適な地域環境」をはぐくむために

- ・ 自然が息づき、人々があたたかい
“ぬくもり”を感じあえる場を創る



- ・ 個性を活かしたゆとりある
美しいまちなみを育む



- ・ まちの景観を乱すものを取り除く



- ・ 高齢者や障害者にやさしい地域環境を育む



「都市的な魅力」をつくるために

- ・ にぎわいと風格のある都市核を創る



- ・ 生活を楽しみ文化に触れる
地域の拠点をつくり育てる



- ・ 四季のいろあいや一日の時のうつろいに
変化する表情を楽しむ都市を演出する



(3) 都市景観の類型分類

都市の景観は様々な要素で構成されており、整備の方法も様々です。ここでは、枚方市の都市景観を構成している要素を抽出し、都市の骨格となる景観として4区分、地区別の面的な景観として5区分を抽出し、合計9区分に類型化しました。この類型に従い、それぞれの景観形成の方向を明らかにしていきます。

都市の骨格景観

線、又は、点的に展開するまちの骨格となる要素です。

まちを相互に関連づけ、又は、節目づけ、都市の構造を明確にします。

ターミナル拠点景観

主要ターミナル拠点

その他のターミナル拠点

沿道景観

広域道路

主要な道路

生活道路

河川景観

広域都市河川

都市河川

小河川・水路

眺望景観

眺望景観

眺望点

ランドマーク

地区タイプ

土地利用や成立過程において共通性を持った一定の面的な広がりを持った要素です。

都市全体の景観の下地となります。

緑地景観

自然緑地

田園地

公園緑地

歴史景観

旧集落

歴史街道

史跡・文化

住宅地景観

計画的開発による戸建住宅地

中高層住宅地

一般住宅地

商業・業務地景観

中心商業・業務地

近隣商店街

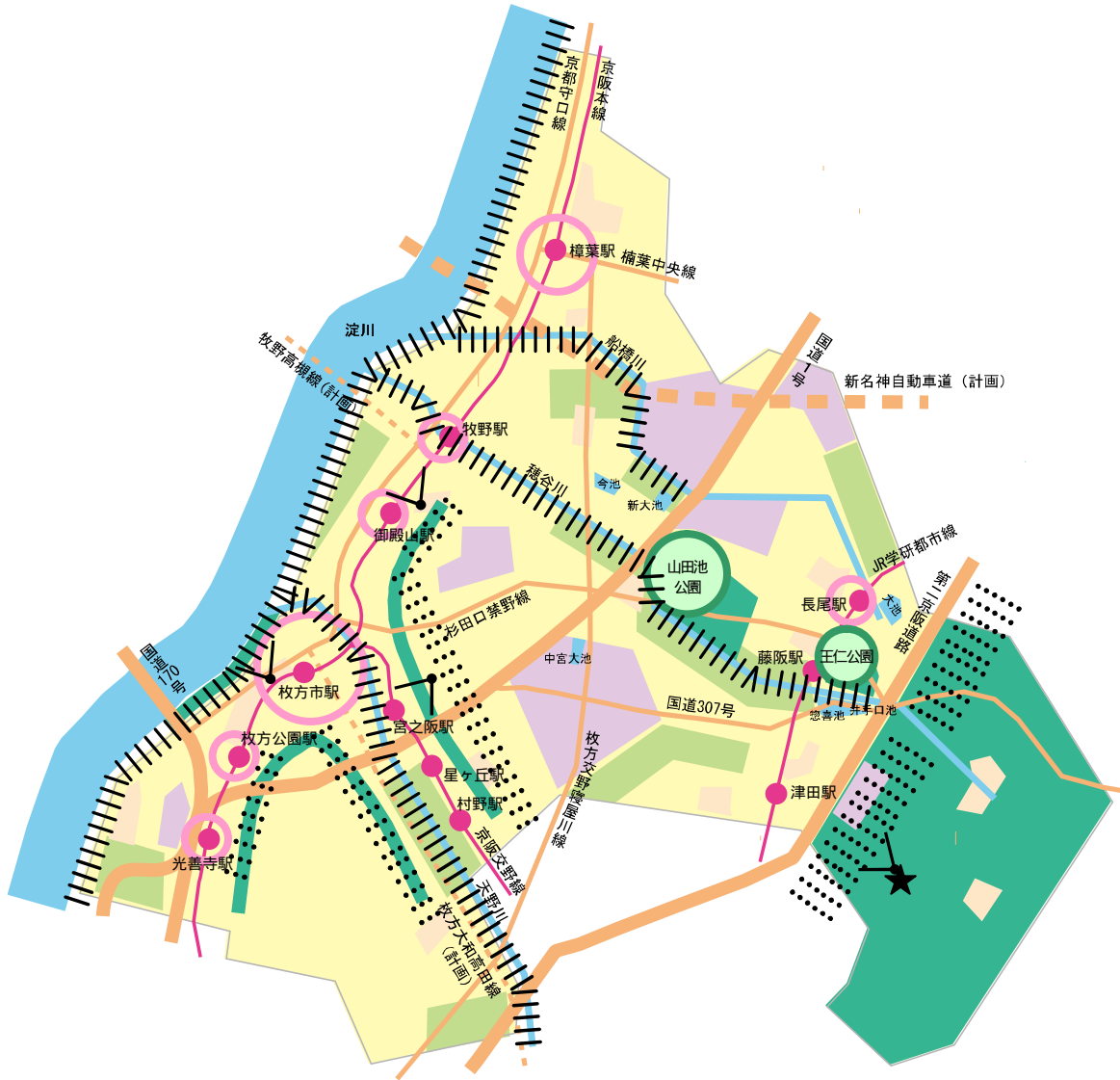
郊外型商業施設

工業地景観







大規模工場・企業団地

小規模工場群

枚方市の都市景観構造図



【都市骨格】

-  ターミナル拠点
-  沿道
-  河川・ため池
-  眺望 (背景となる斜面)
-  (眺望点・眺望軸)
-  (都市のランドマーク)

【地区タイプ】

-  緑地 (自然緑地)
-  緑地 (田園地)
-  緑地 (主な公園緑地)
-  住宅地
-  商業・業務地
-  工業地
-  歴史地区 (旧集落)
-  歴史街道

(4) 都市の骨格景観の方向性

ターミナル拠点景観

枚方市には京阪 9 駅、JR 3 駅の計 12 駅があり、多くの人々が集まるターミナル拠点であると同時に、市や地域の核となっています。しかし、ターミナルとしての機能と核としての魅力を十分に兼ね備えているところはまだまだ少ないです。また、バスターミナルを有する駅では、人・車・自転車が錯綜し混雑の目立つ所も多く見られます。

【景観形成の方向】

今後は、ターミナル拠点としての基盤整備の充実を図るとともに、駅周辺地域を含めた総合的な視点から地域の核となる魅力にあふれにぎわいに満ちた場づくりを進めます。



主要ターミナル拠点

- ・枚方の顔としてふさわしい、洗練され調和のとれた景観形成を図ります。
- ・人や文化が交流する魅力と賑わいのある空間形成を図ります。
- ・市の主要な交通結節点として、基盤整備の充実を図ります。
- ・開放的で緑豊かな快適な環境を創ります。

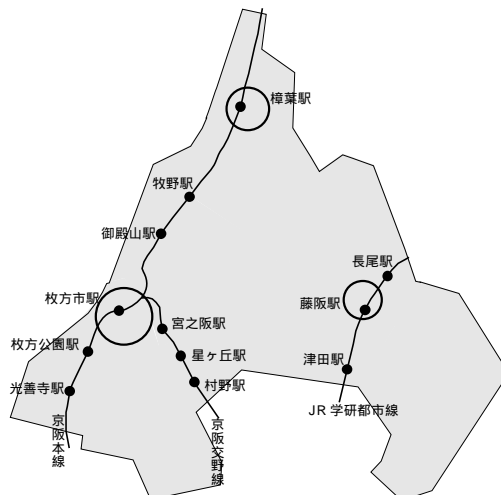


その他のターミナル拠点

- ・周辺のまちなみと調和した、地域の個性を活かした景観形成を図ります。
- ・人々の憩いやふれあいの場の創造を図ります。

鉄道路線図

記号	内容
—●—	鉄道・駅
○●○	主要駅



沿道景観

道路は都市のイメージをつくりあげる骨格であり、都市と都市をつなぐ広域幹線道路、地域を結ぶ地域幹線道路から、住宅地における生活道路まで様々な形態が存在し、沿道の施設と一帯となって主要な沿道景観を形成しています。しかし、流通や通行機能優先の整備が進められたため、道路は往々にしてうるおいのない雑然とした沿道景観となっている区間も多いです。

【景観形成の方向】

今後は都市や地域の骨格にふさわしい安全で楽しみのある景観を育てていきます。



広域道路

- ・うるおいや統一感のある軸景観を創りだすために、道路緑化と維持管理を推進します。
- ・魅力ある沿道施設の誘導を図り、建物や屋外広告物などについて景観上の配慮を促します。
- ・節目となる交差点において、修景やサインシステムなどによる特徴づけを行います。



主要な道路

- ・歩車分離や自転車道整備を推進し、安全で快適な歩行者・自転車の通行空間を確保します。
- ・街路樹や花による緑化を推進し、うるおいのある道路景観をつくりだします。
- ・沿道の屋外広告物や電柱を整理するとともに、まちなみとの調和を図ります。

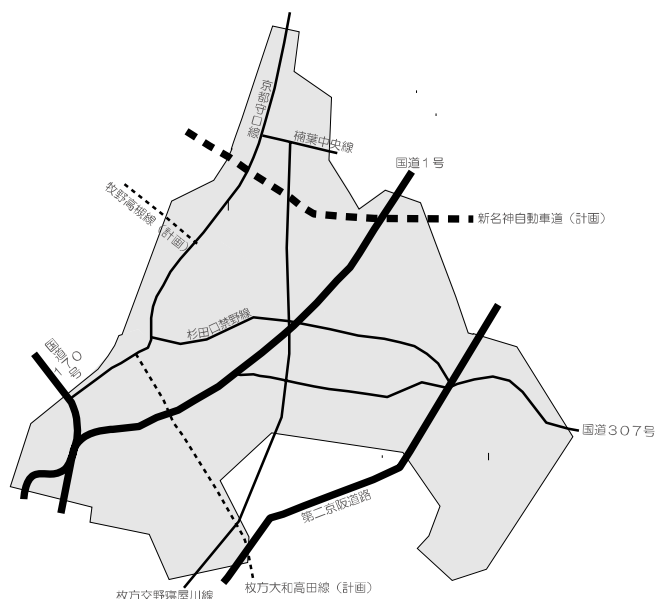


生活道路

- ・生垣や敷地内の緑化を推奨するとともに、ポケットパークなどふれあいの場を整備し、日常生活にうるおいや楽しさを演出します。
- ・歩行者の安全に配慮するとともに、快適な道路環境をつくりだします。
- ・地域の人々の参画により、地域の個性を活かした地域に相応しいデザインを採用します。

道路図

記号	内容
——	主な幹線道路
.....	主な計画道路



河川景観

枚方市域の主な河川としては、広域都市河川である淀川と東部の生駒山系から市内を貫いて流れる3つの都市河川(船橋川・穂谷川・天野川)があります。これらは市域の貴重なオープンスペースとして、まちにうるおいをもたらす主要な要素となっています。しかし、これらの河川はいずれも堤防が高く、堤防上からは広く周辺地域を眺望することができる一方で、河川と市民の日常生活の場が分断されており、地域と密着しているとは言えません。また、ゴミの不法投棄や雑草が繁茂している区間も見られます。

4 河川の他にも支流となる小河川や水路が数多くありますが、無機質な整備が多く、水質が悪い区間や危険性のある区間も見られるため、人と水との関わりを疎遠にしています。一方で、小型の魚類や水生昆虫などが生息する区間も見られます。

【景観形成の方向】

今後は市民が身近に水に親しみ自然とふれあうことのできる空間として活用していきます。



広域都市河川

- ・川の流れたに沿ったダイナミックで開放感のある自然景観の保全を図ります。
- ・市街地からのアクセスの改善と快適な歩行空間の整備により、誰もが使用でき、親しみやすい河川空間の創造と適切な管理を図ります。



都市河川

- ・生態系に配慮した河川沿いの散策路や親水護岸を施し、自然と触れ合える水と緑の軸をつくります。
- ・河川の水景を活かしたまちづくりを推進します。
- ・地域性や歴史性を表現した橋のデザイン化を図るとともに、橋からの眺めを楽しむ憩いの場の整備を図ります。

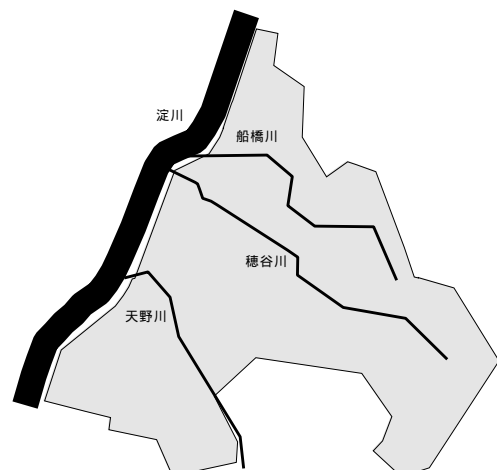


小河川・水路

- ・河川・水路の修景や緑化、安全確保を推進し、親水水路や緑道としての活用を図ります。
- ・水質の浄化や親しみやすい生き物の生息環境の保全を図ります。

河川図

記号	内容
—	主な河川



眺望景観

市域の広がりをつめるダイナミックな眺望景観は、国見山から一望することができます。また丘陵縁辺部や淀川などの堤防上からも市域の眺望を得ることができます。これらの眺望景観には、生駒山系や北摂連山・丘陵縁辺の緑地などが景観の背景として大きく寄与しています。また集落に残る社寺林や高層建築物、枚方パークの観覧車などは地域を印象づけるランドマークとなっています。しかしこれらの眺望は、背景の山の開発や建築物の大規模化などにより、変化しつつあります。

【景観形成の方向】

今後は、優れた眺望景観や眺望軸・眺望点、地域を印象づけるランドマークの保全・整備を図ります。



眺望景観

- ・枚方の景観の背景となる生駒山系や丘陵斜面地などの緑を保全します。
- ・良好な市街地景観の形成や誘導を図ります。
- ・眺望に配慮した建築物、工作物等となるよう規制・誘導を行います。



眺望軸・眺望点

- ・国見山や丘陵、橋梁及び堤防上などの良好な眺望が得られる眺望軸や眺望点の保全・活用を図るとともに、新たな眺望点を創出します。
- ・良好な眺望景観を快適に楽しむための整備と管理を行います。
- ・眺望空間への安全で快適なアプローチを確保し、広くPRします。

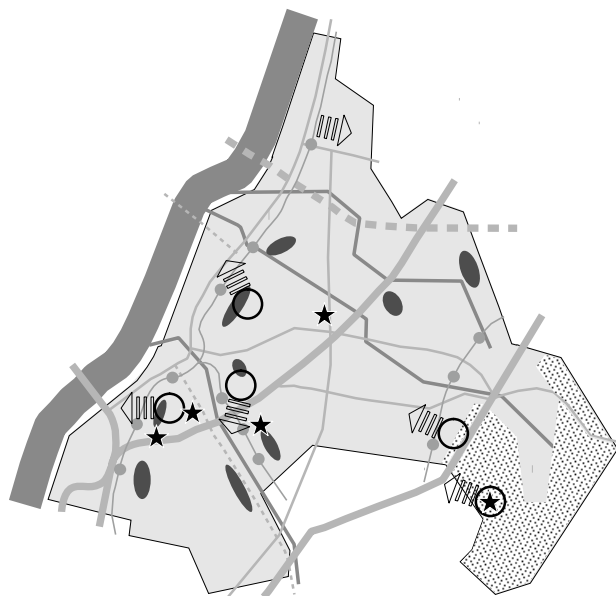


ランドマーク

- ・地域のランドマークとなる社寺林や景観木などを保全します。
- ・地域の目印となるような大規模建築物については、ランドマークとしての景観的配慮を促します。
- ・ランドマークを景観資源として有効に活かすための周辺環境の整備とPRを行います。

眺望地点図

記号	内容
	山林
	丘陵斜面林
	眺望軸
	眺望点
	眺望方向
	ランドマーク



(5) 地区タイプ別の方向性

緑地景観

東部の生駒山系や淀川に沿った丘陵縁辺部に残る斜面林は、うるおいあるまちの背景として都市景観に大きく寄与しています。また市街地におけるオープンスペースとしての田園地や公園緑地、市域に点在する数多くのため池も、景観要素として重要なものです。しかしこれらの自然緑地は、市街化の進展に伴って徐々に失われつつあります。

【景観形成の方向】

今後は緑地の保全・修復に努めるとともに、緑豊かなまちづくりを進めます。



自然緑地

- ・ 東部山地をはじめ丘陵部及び河川敷などに残る良好な自然緑地を守ります。
- ・ 自然巡回路や野外活動施設の整備などにより、自然緑地をレクリエーション空間として活用します。
- ・ 生態系に配慮した最小限の管理と自然保全の重要性の周知・啓発活動を行います。



田園地

- ・ 良好な景観を形成している田園地を保全するとともに、都市の貴重なオープンスペースとして活かします。
- ・ 安らぎや潤いを与える良好な農空間を保全するため、コスモス・ひまわりや環境保全型農業に配慮したレンゲ栽培米などを推進することで、地域景観資源としての活用を図ります
- ・ ため池を適切に保全し、地域の景観資源として活用します。

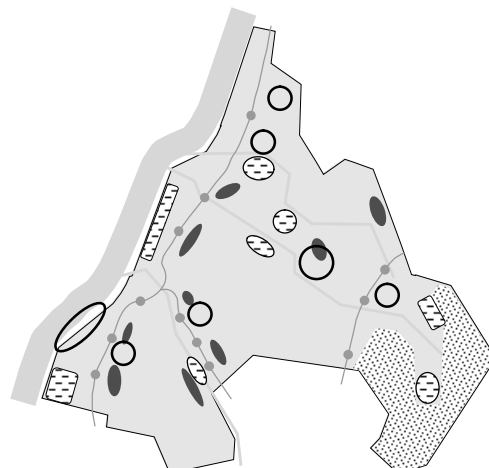


公園緑地

- ・ 地域毎の個性を活かして、子供から高齢者までが身近に楽しめる多様性のある公園緑地の整備を推進します。
- ・ 送電線敷を利用した緑道により、緑の軸をつくりだします。
- ・ 既設の公園は、明るく、快適で、利用しやすい公園をめざします。

緑地等区域図

記号	内容
	山林
	丘陵斜面林
	田園地
	主要公園緑地



歴史景観

枚方市は古くから京都と大阪を結ぶ交通の要衝にあたり、現在も一部の街道や集落にはその面影が残っているところもあります。しかし、近年の建替や周辺の開発などによって徐々にその特徴が失われつつあります。一方、旧枚方宿においては、まちなみの保全と再生の活動を地域が主体となって進めており、旧京街道の面影を取り戻しつつあります。

【景観形成の方向】

各地区に残る歴史的たたずまいを地域の個性として保全し、貴重な景観資源として活用していきます。



旧集落

- ・鎮守の森や土蔵、土塀、石垣など集落内の歴史を感じさせる資源を保全・活用します。
- ・重要な景観を有する地区では地域にふさわしい景観をめざします。



歴史街道




- ・街道沿いに残る歴史的まちなみや道標・燈籠・巨木などの資源を保全・活用します。
- ・歴史を感じられる散策コースの整備を図ります。
- ・広告看板・標識・サインなどは歴史的なまちなみと調和を図ります。

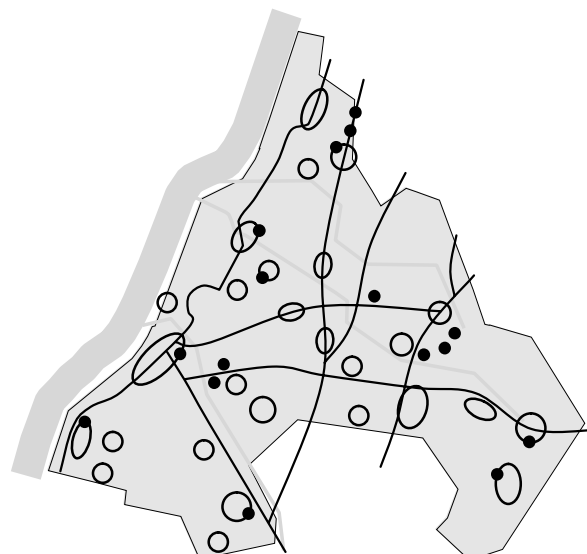


史跡・文化財

- ・史跡や古墳などの歴史的遺産を地域の個性として保全・活用します。
- ・歴史的資源に親しみやすくするため、案内板などの整備を行います。
- ・重要な史跡などの景観を保全するために周辺を含めた保全対策を講じます。
- ・重要な史跡などと周辺が調和した景観形成をめざします。

歴史資源位置図

記号	内容
	旧集落・旧宿場町
	歴史街道
	史跡・文化財



住宅地景観

枚方市域では、香里団地や京阪沿線、丘陵地などにおいて、公的機関や民間資本による計画的な住宅地開発が進められました。しかし一方では、都市としての基盤整備が十分でないままに開発が進められた住宅地も多く、住区内はオープンスペースや緑に乏しいうるおいのない住環境となっている場合が見られます。

【景観形成の方向】

今後は地域の個性を活かしながら、安全性、快適性にあふれたゆとりある住環境を創造していきます。



計画的な開発による戸建住宅地

- ・生垣緑化制度などを活用し、実際の緑化や庭の植栽により住宅地内の緑を保全・育成します。
- ・公園・緑道などのオープンスペースを、個性ある地域のコミュニティ形成の場として活用します。
- ・地区計画や建築協定などの活用によりまちなみを整えます。



中高層住宅地

- ・ゆとりある住棟・緑の配置などを行い、周辺の住宅地との調和のとれた景観づくりを図ります。
- ・オープンスペースを確保することにより、うるおいある人々のふれあい空間の創造を図ります。

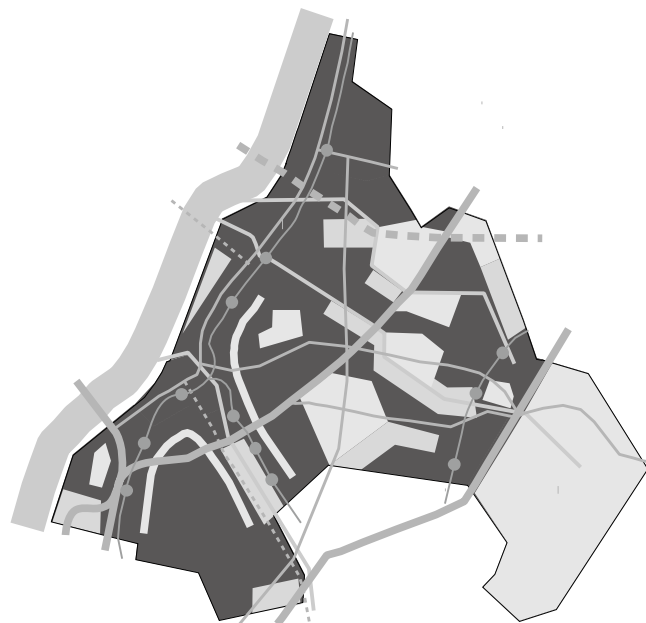


一般住宅地

- ・生垣、宅地内緑化など、住宅地の個性に応じた緑化を進めます。
- ・空地のポケットパーク化など、オープンスペースの確保に努めます。
- ・周辺の既存の住宅やまちなみに調和する住宅づくりを誘導します。
- ・空き家や空き地は景観に配慮した管理をします。

住宅地位置図

記号	内容
	住宅地



商業・業務地景観

枚方市では、枚方市駅をはじめ樟葉駅などの京阪及びJRの各駅前、また国道1号などの幹線道路沿いに商業施設の集積が見られます。商業・業務地は日常的な生活拠点であるとともに、都市や地域のイメージを形成する拠点でもあり、楽しさやにぎわいが求められます。しかし、高さや色彩においてまとまりのない建築物や看板の氾濫などにより雑然としているところも見られます。また、歩行者空間においても人と車、自転車が交錯するなど、快適で安全な環境にあるとは言い難いところも多いです。

【景観形成の方向】

今後は、商業・業務空間としての活力に溢れ、にぎわいに満ち溢れた快適な環境の創造と、文化性の感じられる個性あるまちの顔として、まとまりのある景観形成を図ります。



中心商業・業務地

- ・中心商業・業務の集積地にふさわしい、人や文化・情報の交流する活気あふれる都市空間として整備します。
- ・建築物や工作物などの良好なデザインを誘導します。
- ・景観を阻害する広告物などの整理又はデザイン化を図ります。



近隣商店街




- ・地域の生活拠点として、個性と親しみのある景観形成を図ります。
- ・商店街の軸となる道路などは歩行者に配慮した魅力的でゆとりのあるものをめざします。
- ・放置自転車のないまちをめざし、駐輪場の整備や放置自転車対策を推進します。

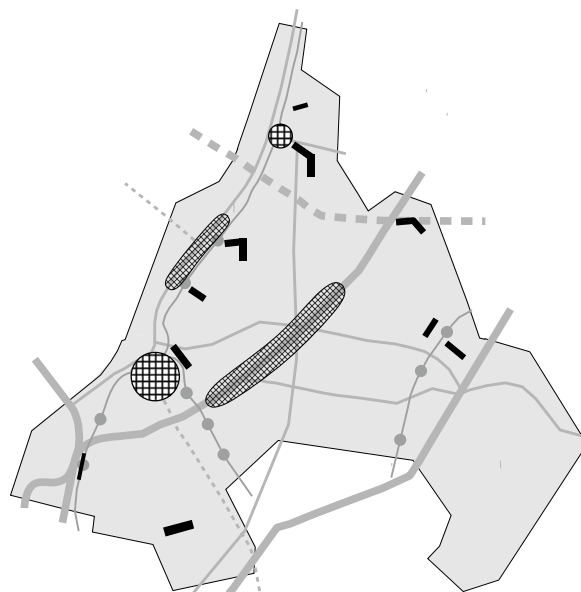


郊外型商業施設

- ・建築物や広告看板の形態・色彩などについて、質の高いデザインの誘導を図ります。
- ・夜のライティングについて、周辺との調和を図ります。
- ・敷地内の緑化を推進することにより、沿道一帯にうおいをもたせます。

商業地位置図

記号	内容
	中心商業・業務地
	近隣商店街
	郊外型商業施設



工業地景観

国道1号の建設をきっかけとして、枚方市では枚方企業団地などの工業団地が相次いで建設されました。最近では第二京阪道路の沿道に津田サイエンスヒルズの工場群が立地してきました。大規模工場・工業団地においては、敷地内の緑化が進んでいるところも多いですが、小規模工場群においては緑も少なく、良好な環境とは言い難いです。

【景観形成の方向】

今後は周辺地域と調和のとれた、快適でうるおいのある地区環境を形成します。



大規模工場・工業団地

- ・工場の周辺や地区内の緑化を図ります。
- ・工場内の建築物及び工作物のデザイン等については、周辺地域をはじめ遠くからの視線にも配慮します。
- ・敷地内の資材置場などは配置の工夫などにより景観に配慮します。



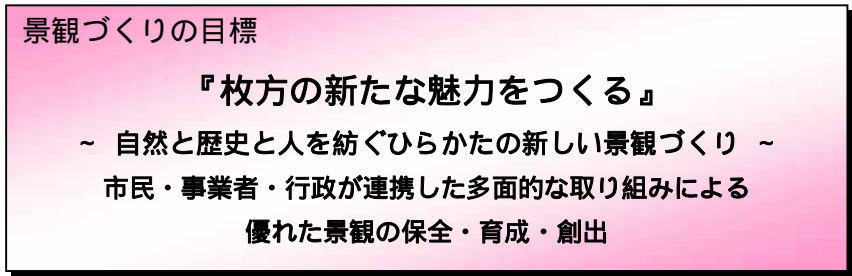
小規模工場群

- ・道路や隣接地に面した部分の緑化などにより、地域景観の向上を図ります。
- ・建築物や工作物のデザインについて周辺地域との調和を図ります。
- ・建築物や看板などのデザインに工夫して工場のイメージの向上を図ります。

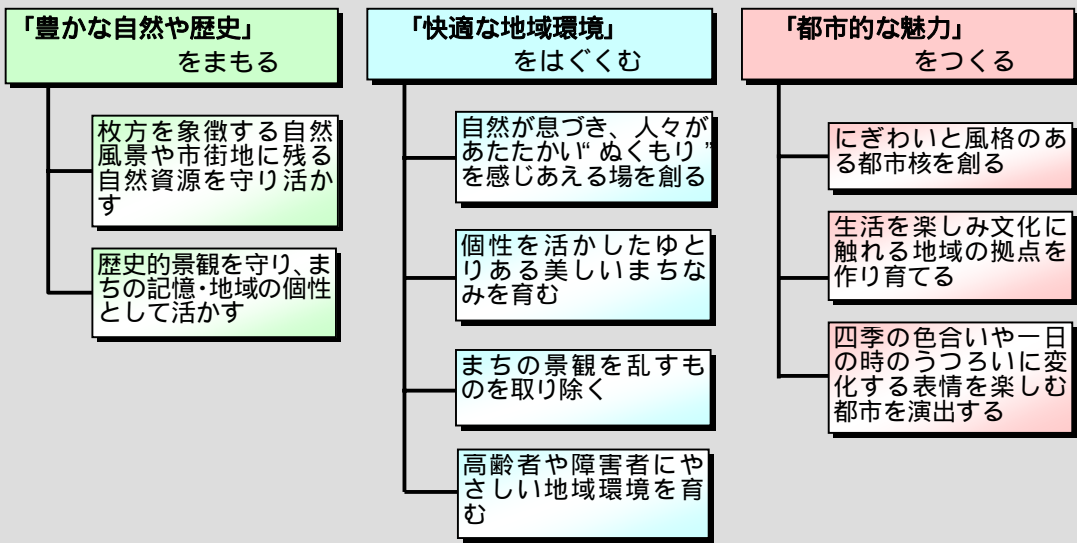
工業団地位置図

記号	内容
	大規模工場・工業団地
	小規模工場群

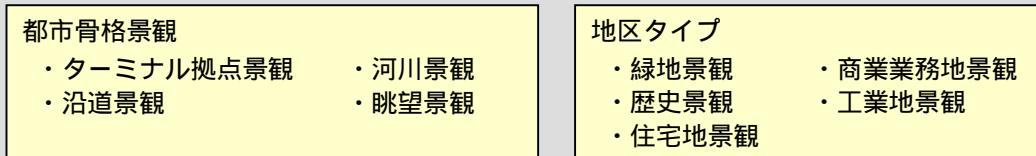




魅力づくりのテーマと基本方針



類型別景観形成の方向



地域への展開

